

繪巻 中 鑑 力 片 是 形 新 下

2058
24



13
2058
2

○七段目の口

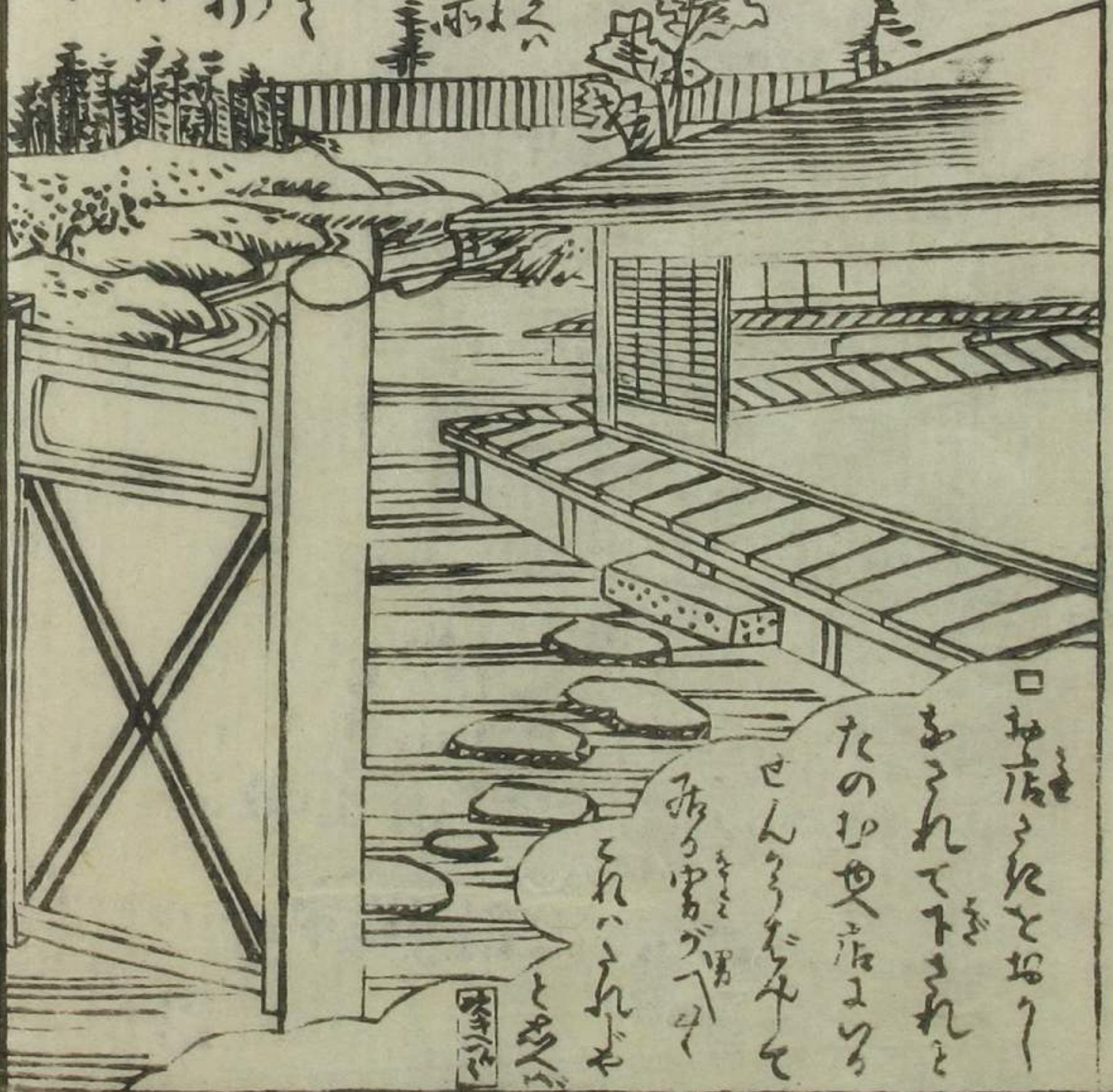
さうぢの門のへる夜
影付のころさかた
はぐの七首もしくと
くろもあつとちかしくとくろも
うまのつとそもで番はつとま
とんでつとまのつとまのつとま
とつとまのつとまのつとま
さぬつとまのつとまのつとま
門の戸とつとまのつとま
あけつとまのつとまのつとま
あぬあへつとまのつとまのつとま
今とつとまのつとまのつとま



▲さかたのつとま
とつとまのつとま
つとまのつとま
つとまのつとま
つとまのつとま
つとまのつとま
つとまのつとま
つとまのつとま

○七段目 砂切

孝の秋と系がたそ
このはう河不掃が
よの連ようれうとよ
うらさそまづけ
なごそそらざんし
おろろぐて親と市まの
背戸は出あさるは
掃とたのしうたて
一善まてそあまの
のなうしとそあお
よく好目のことあれば
んごうもまぎく



□お上店とたとおう
まこれて下されと
たのお上店よ
せんこうをんを
あつちがう
これいれよ
とあ

これいしつおそく
まあま
定めてらあ
うれうであま
いしつく
きんこのいしつ
うらう今
うらうくのかま
やうらうま



きんこのいしつ

向しも西の方も
 ちの傳家一や
 引とらんと店を
 志やまどやあらふれと
 らんとむつとれと
 うの親父のまき
 さよと紀一と
 をよひて下
 何とせんあま地
 ふうのことしよぞ
 せしむはま



挿店と行ぢけ
 けろと一かの
 由へは
 挿とあひゆん
 フット挿子
 おうろうはえ
 せうろとあ
 アイ
 ○八段目
 かし川幸
 ひとあゆ
 江戸
 まく



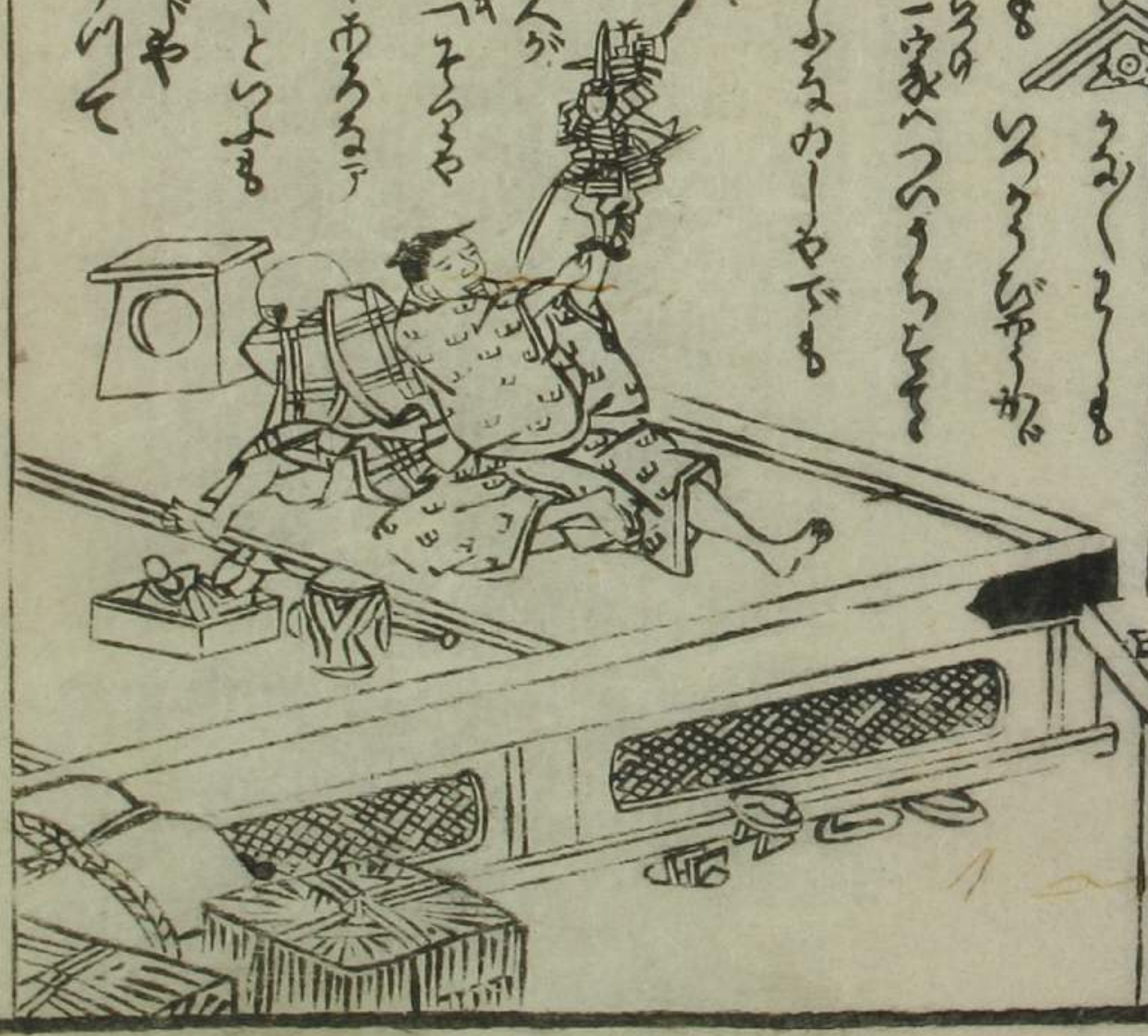
こゝろを其のつけよあ
 うらゝてまゝのいふみと
 るてあつらふ「そそまや
 ちゝもせそふらうやん入
 「サイヤイそふれんそ
 める

○十段目お口

おそのて親めしやう行天行
 後の門はうら「はるをいそ
 ぐいので移りうらよまは
 うぬが美平ぶの風へあ
 とうのしとぶはよまはし
 美平まひで可きうと



けううらまのてあひう
 ののく移りがとれせん「ま
 そふであらう「あそあれん
 こんとわのてらそが「あ
 地れやう「「まそああ人のよ
 ん中ららま「「そあうら
 わらうか「もこらうか「も
 ぞう引をうそ「そ「とま
 めいぶつの一や「と「ま
 ち「こ「ち「てあらう「い
 「ま「あ「い「あ「あ「あ
 ち「あ「ら「あ「中「て「あ
 う「い「て



○十段目の切

中流に舟を平らにせしむるに
 舟の舟を志の舟とせしむるに
 下けはしむるに武士の舟を
 あつたれのとせしむるに
 舟の舟を志の舟とせしむるに
 舟の舟を志の舟とせしむるに
 舟の舟を志の舟とせしむるに



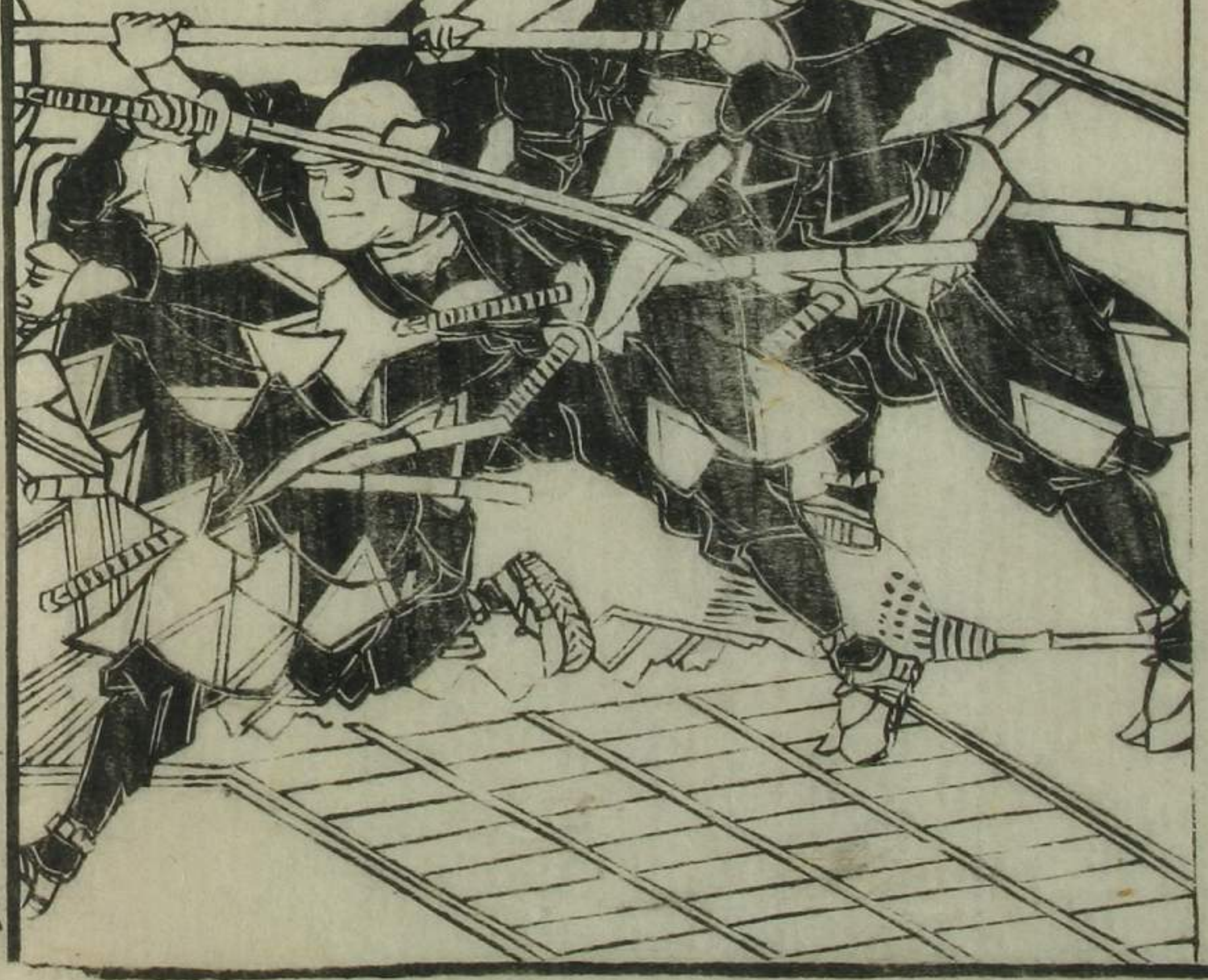
舟人の舟を志の舟とせしむるに
 舟の舟を志の舟とせしむるに
 舟の舟を志の舟とせしむるに
 舟の舟を志の舟とせしむるに
 舟の舟を志の舟とせしむるに
 舟の舟を志の舟とせしむるに



舟の舟を志の舟とせしむるに
 舟の舟を志の舟とせしむるに
 舟の舟を志の舟とせしむるに
 舟の舟を志の舟とせしむるに
 舟の舟を志の舟とせしむるに
 舟の舟を志の舟とせしむるに

十二のあまのむらさき...
 中のあまのむらさき...
 この風呂...
 報せ...

○十一段目 大少
 相もこの師連の中...
 大少...
 報せ...



道...
 師連...
 四十七人のめ...



